

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4471200180		
法人名	医療法人 土生医院		
事業所名	グループホームあじさい		
所在地	大分県豊後大野市三重町内田六反2541番地		
自己評価作成日	令和3年9月5日	評価結果市町村受理日	令和3年12月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和3年10月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営母体が医療法人なので日常生活や緊急時の対応がスムーズにできている。また毎食、対面式のキッチンで調理をすることで家庭的な雰囲気である。対面式なので個々に合わせた食事形態で提供することも工夫している。立地面では中学校の通学路に面しており、生徒の会話や制服等で季節の移ろいを感じることもできる基本的な時間の流れは決まっているが、その日の利用者の体調に合わせた関わり方をすることで利用者1人1人がゆっくりと過ごすことが出来ている。口腔体操やレクリエーションでは職員が工夫をし笑いが起こる中でゲームを行ったり、利用者個人の得意なことや自宅で行っていた作業をしてもらうことで生活リハにも取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・利用者の気持ちに寄り添い、みんなが笑顔になるようにという理念を常に意識しながら毎日の支援に努めている。
- ・毎食施設内で食事を作って調理の音や匂いで家にいるような雰囲気である。食べることを大切にしており、美味しく食べやすいよう工夫もされている。
- ・母体の医療機関との連携で日常の体調管理から終末期までの継続した支援があり、安心して過ごすことが出来る。
- ・長く勤務する職員が多く利用者本位のケアに努め、常に業務の見直し改善などを話し合っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人内にグループホームはもう一か所あるが、それぞれ独自の理念を作成し、ホーム内に掲示している。日々のケアにつながるよう取り組んでいる。新型コロナの影響で現在は行えていないが、近隣保育園児の来訪があった。	利用者の気持ちに寄り添うという理念の元、一人ひとりと向き合いゆっくり話している。そこで得た情報を職員みんなで話し合い、共有している。職員や利用者皆が笑顔で過ごせるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナの影響で、ここ1年程は地域とのつながりはできていないが藤華医療専門学校の実習受け入れは続けている。家人面会は、状況に応じ、マスク着用や検温行い、窓越しの面会や電話をかけたたりしている。	地区の文化祭など行事に参加していたがコロナ禍で中止となり交流が出来ないでいる。そんな中でも近くの専門学校より実習生の受け入れを継続している。自治会に加入しており、市報が届きなじみの人の記事を見つけて懐かしんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	藤華医療専門学校の実習受け入れをし、認知症理解してもらっている。また運営推進会ではメンバーに区長さんが入ってもらい意見交換の場を設けている。家人にはグループホーム便りを送付し利用者情報を伝え、写真も同封している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では入居者情報だけでなくヒヤリハット事例も報告し助言をいただく機会としている。市の高齢者福祉課からは介護状況の情報提供も受けており他施設での参考にできる取り組み等は自施設でも行うようしている。議事録を掲示するだけでなくカンファレンスで話し合い、サービス向上につなげている。	1月より対面での開催が再開され出席者より意見を頂いている。市担当課、包括センター、区長、保健師などの参加がある。議事録をもとに申し送りで職員みんなで共有し、利用者にとって過ごしやすい施設づくりに取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2か月に一度の運営推進会では意見交換をしている。また、介護保険認定調査への協力や認定調査の資料提供にて市役所へ訪問している。	推進会議には高齢者福祉課より毎回出席があり情報をもらっている。更新申請などで市に行った時には、介護情報や困難事例にはアドバイスをもらうなどして市との連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の基本的な考え方が出来るように研修を行っている。カンファレンスだけでなく、申し送り時等、転倒や滑落の危険性がある利用者に対して拘束せずに見守りが出来るテーブル席の配置を検討している。拘束発生した場合は2週間に1度アセスメントを行い主治医へ報告署名、家族へ説明しサインをもらっている。	身体拘束について全職員で話し合い活発な意見交換をしている。センサーマットについては危険を予知するためか、行動の抑制になるのか多角的に検討している。ホールでの席は、本人の状態を考え転倒防止も考慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	何が虐待になるのかを職員同士でカンファレンス時等に検討している。特に気づきにくい「スピーチロック」についても話し合いを設け、虐待防止の研修会へ参加した職員は研修報告をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に対する制度は虐待と同様に研修会を行っている。現在の利用者の中で支援事業を必要とされる方はいないが、利用者より相談を受ければ、上司へ報告し対応してもらうようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には契約の時間を設け契約書を読みながら内容の説明、利用料金だけでなくケアの取り組み等を説明し理解いただけるようにしている。質問事項で即決できないことはホーム長などに確認し、早めに家人へ報告している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナの影響で面会回数は減っているが、電話にて家人へ状況報告し、要望を聞く機会を設けている。家人からの意見はカンファレンス等で話し合い施設としての取り組んでいる。年2回行っている家族会では家族同士の意見交換の場としている。	ケアプランを渡す時や電話などで意見要望を聞いている。10月からガラス越し面会となり家族と会う機会がある。施設前の砂利を舗装してほしいという要望があり検討している。利用者からは食べたいものの意見があり、おやつやメニューに反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っている管理者会議では各施設からのヒヤリハットの報告や行事予定だけでなく、ホーム長も参加し、施設間の取り組み等でアドバイスももらっている。	毎月のカンファレンスで職員から意見を聞いており日々の業務の中でも話が出る。希望休や夜勤の要望も聞いている。研修参加も出勤扱いになるなど働きやすい環境になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格習得者には資格手当で反映している。外部での研修では時間内で勤務扱いとし参加費用も施設で補い参加できる支援をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修会に職員参加できるようにしている。受講で終わりではなくカンファレンス等で研修報告を行い、他職員への伝達を行っている。また新任職員には指導者をつけ技術面だけでなくメンタル面もフォローできるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大分県グループホーム協会の会員で研修に参加し交流する機会を設けている。認知症実践者研修、認知症管理者研修にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス提供前に本人の意向や職員が出来ることを話し合い、どのサービスが必要なのかを検討し、気持ちよく日常生活を過ごせるよう、お手伝いをさせてもらっている。会話の中から、本心が聞き取れることもあるのでゆっくりと会話するよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には可能であれば本人や家族と面会をし要望を聞くようにしている。またホームの生活を見学してもらうことで事業所で、対応できることを伝えるようにしている。また面会や電話で本人状態等を伝えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の実状や要望を把握し、何が必要なのを見極めるようしている。事業所内での対応が困難な時には他のサービス機関と連携をとり改善にむけた支援提案を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護をするときには利用者への声掛けを第一に、目線を合わせるようにしている。洗濯物たたみや誕生日会のケーキ作り、玉ねぎの皮むきを利用者と一緒し、日常生活の中で役割を持ってもらうように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話で日常生活の様子を伝え、行事等にも参加して頂けるよう案内をしている。本人要望で購入依頼をすることもある。また家族を支える関係づくりをめざし家族からの情報提供もいただくようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナの影響により外出はできていないが、子供のころからなじんできた、ひな祭りや敬老の日などの季節の行事や食事などを工夫し楽しんでもらっている。携帯電話を持っている利用者は自室で好きな時間に電話を家族へかけている。	10月より窓越し面会が出来るようになった。2,3ヶ月に1度訪問美容があり顔なじみとなり利用者は楽しみにしている。施設の横が通学路となっており、歩く中学生を嬉しそうに眺めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お誕生日会では他者への、お祝いを言ってお下さったり毎日のレクでは助け合ったりする姿が見られている。一緒に何かをすることで利用者同士の関係も深まっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された場合はお見舞いに行くようにしている。また逝去されたときには葬儀へ参列し家族のグリーフケアを行うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話やケア時に利用者の思いや希望等をくみ取るようにしている。うまく言葉にできない利用者には行動や状況から把握し職員間で検討、支援行っている。得た情報は職員間で共有、反映できるかの検討をしている。	日々支援する中で特に入浴時1対1になると良く話をする。ゆったりとした時間の中でみんなと楽しく過ごし、食べたいもの、やりたい事などを見出して職員間で共有している。帰宅願望のある利用者についてみんなで意見を出し合い、支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートや本人、ご家族から得た情報は職員間で把握しサービスへとつなげている。また日々の会話の中から情報を得ることもあるので職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人に役割や生きがいを見つけ充実した日々を過ごせるよう支援している。本人の残存機能を活かした生活が送られるよう職員間で取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向を普段から大切にしているがカンファレンス等で主治医や看護師に参加してもらい意見を伺っている。身体、生活状況等も含めた情報をケアマネに提供し、プランに反映している。	利用者に担当制を設け細かく思いや体の状態を知り職員間で話し合っている。歩きたい、トイレに行きたい等の気持ちをプランに活かしている。体調が悪くなればその都度見直しをして、家族の意見も聞いてプラン変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。また毎日の生活で変化を見逃さない様、利用者の状況に応じた対応が出来るよう個人記録に残し申し送り共有。疑問や介護をする中で不安なことは都度解決できるよう取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当該医療法人の主治医による月2回の定期受診を行っている。家族状況に応じて通院や受診支援、家族の依頼で介護保険の代行申請も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナの影響により外部との接触は限られているが、なじみのある理髪店の来所で散髪をしてもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医院併設のホームではあるが利用契約時に希望する「かかりつけ医」に継続して受診できることを説明し受診支援を行っている。他病院受診時には基本的に家族同行としているが不可能な時には職員同行し情報共有している。	主治医をどこにするか決定変更は自由である。普段の受診は母体医院が便利で利用することが多いが、歯科眼科等は基本的に家族同行であるが行けない時は職員が同行し結果を家族にも報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の医院と連携を常に行い利用者の状態報告している。個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。状態変化有れば医院へ報告し指示を受け早期に対応するよう心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院される際は日常生活の情報共有を行い環境変化で混乱しない様支援している。退院する日程等が決まると入院先に出向き情報収集や主治医の指示が仰げるようにしている。入院時と身体状況の変化ある場合は居室の環境整備の見直しもしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に終末期の要望を、おたずねしているが、いつでも変更可能なことを説明している。本人様がそのような状態になった時には安楽な姿勢をベッド上で保ち必要時は法人内の医院へ連絡している。	入居時重度化した場合の蘇生について説明し希望を聞いている。状態が変わればその都度変更可能である。医師や看護師が頻繁に来所し、施設にも看護師がおり安心して暮らすことが出来る。研修の元看取りも経験しており、職員の意欲は高い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	高齢者に突発的なことがあることを理解し、緊急時に備えての訓練や初期手当の方法をカンファレンス等を利用し学ぶ機会にしている。高齢者特有の疾患に加え認知症の観点から医師、看護師からアドバイスをもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施している。訓練時には要綱を再度見直し、訓練にあたっている。また緊急連絡網の訓練も適宜法人内での災害時に協力体制が出来るようにしている。	年2回の避難訓練を行っている。11月には消防署立ち合いで開催する。昼間・夜間想定で利用者も一緒に避難訓練を行っている。備蓄品は目の付く所に2日分ある。コロナ対応としてマスク、消毒液・抗原検査キットも備蓄しガウンテクニックも指導している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権擁護と共にプライバシーの保護や高齢者の自尊心についての研修を行っている。声掛け時には視線を合わせるだけでなく個人に合わせた対応をしている。排泄や入浴介助ではプライバシーを損なわない様、目隠しカーテンを使用している。	丁寧な言葉使いと親しみのある方言も使いながら信頼関係を築いている。本人の気持ちを損なわないよう、尊厳の念をもった支援で法令順守にも心掛けている。内部研修があり盛んに意見交換を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で個人の思いや希望を聞き自己決定できるよう働きかけている。わかりやすい話し方の努力や表情の観察を行っている。レク等を行う際、やりたいゲームや歌いたい歌を選んでもらったりもしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるが個人のペースに合わせ対応している。希望があれば入浴日の変更、体調や気分で主食を粥で提供したりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の起床時の整容だけでなく、馴染みのある理髪店の来所で散髪をしてもらっている。自分で訴えることのできない利用者の衣服汚染があった場合は声をかけ、更衣介助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備での玉ねぎの皮むき、団子汁の団子伸ばしや誕生日ケーキの飾り付けを職員と一緒にしたりと食べるだけでなく、主婦だった時の役割を感じてもらっている。1口でも多く食べてもらえるよう食事前の口腔体操で食べることを意識してもらっている。	毎食施設内で調理されている。一緒に下ごしらえをしたり、状態に応じた食事形態を取り皿や盛り付けを検討し楽しめる食事に努めている。誕生会にはケーキを作ったり、お正月や紅葉時期など季節を感じる献立になるように考えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量は毎日チェック表に記載し職員間で情報共有している。水分は本人の好きなものに変えたり、飲み込みの悪い方には工夫して少しでも経口摂取できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けで口腔ケアを行っている。利用者の状況に合わせ、歯ブラシだけでなくスポンジブラシ等を使用している。義歯は夜間、職員があらかじめ洗浄剤を用いて消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	居室ごとにトイレを整備している。夜間はオムツ対応の方も日中は2名対応でトイレ介助している。排泄表を利用し訴えが出来ない方でも時間を見て支援することで皮膚トラブルも防ぐことが出来ている。	日中はトイレ使用である。時間を見てトイレ誘導し清潔にも心掛けている。夜間は3時間毎にパット交換をして十分睡眠がとれるよう支援している。オムツの方も昼間はトイレに行けるように介助している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を記録し、職員間でパターンを共有。食事季節の野菜を多く取り入れ水分補給を重視。身体を体操等で動かしたりすることで排便につながることを本人に伝え支援している。下剤使用時も申し送り共有している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の体調にもよるが週2回、入浴確保している。体調が思わしくないときには清拭に変更したり、部分浴を行い個別支援をしている。季節にあった入浴剤を使用することでリラックスしてもらうよう心掛けている。排泄後は陰部洗浄もやっている。	週2回の入浴である。嫌がる時や体調が悪いときなどは日や時間を変えたり清拭にするなど柔軟に対応している。一人ずつの個別入浴で職員と話しながらゆっくり入浴を楽しんでいる。柚やヨモギの葉を入れ気持ちをリラックスすることが出来ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間睡眠が十分にとれていない方には昼寝等で個別に休息がとれるよう支援している。日中は生活リズムを整えるよう努めている。室温や寝具調整で安眠出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬内容がわかるよう処方箋ファイルを作成している。変更や中止、医師の指示等があった場合は個人記録に記載し申し送りで伝達している。薬剤師の訪問が月2回あり、内服に関しての注意事項や指導を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日会や行事を行う際、利用者の嗜好や希望を聞いている。集団レクでは利用者が得意なことを見極め、日々の手作業につなげている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナの影響で外出はできていないが、窓から外を見たり外気に触れることはできている。	以前は近くの銀行やスーパーに歩いて行っていた。あじさいや桜など花見のドライブに出かけていたがコロナ禍で中止となっている。今は施設の周りを散歩して外気を浴びている。病院受診で家族と一緒に出かけ楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	生活していく中で必要なものは家族から預り金を貰い受け購入をしている。金銭収支管理票を作成し都度家族へ知らせ、サインをもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設に電話がかかってくれば生活状況を伝えたり、会話できる方であれば本人に代わり通話してもらっている。手紙等が届いた場合は本人に開封してもらい、届いた喜びも味わってもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅と同空間提供を心がけている。職員が調理する姿が見えることや季節の花を飾ったりすることで居心地良い環境づくりにも心がけている。毎月の壁画作成では利用者も一緒に行い、季節感を味わってもらっている。	毎月利用者と一緒に作成する貼り絵を壁に飾っている。あちこちに花が飾られ季節を感じることが出来る。車いすが接触しないように動線を考えテーブルを配置している。ソファやテレビが置かれ、ゆっくりくつろげるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは混乱しない様、座席は決めてある。ソファや椅子を置き利用者同士、会話出来るようにしている。聞こえづらいようであれば職員が伝達している。歌レクでは歌った後に利用者同士で思い出話をする事もある。他の利用者が困っているときに手伝いをしてくれる姿が見られることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には使い慣れたものを持ち込み可能でベッド位置や向きは利用者自身で変更することが出来る。歩行できる方の居室は動線上に躓く原因(コードなど)となるものを置かない工夫もしている。	座椅子やちゃぶ台、テレビなど家から持ち込まれており写真などを飾りこれまでと変わらない雰囲気作りに努めている。使っていないものは片付けて生活しやすい空間となっている。床に白線を引いて安全に歩けるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室や廊下に手すりをつけ安全に歩行が出来るようにしている。廊下は車いす利用者が廊下を安全に走行できる幅が十分にある。また居室入口には名前をわかりやすく大きく貼ってある為「自分の部屋」を認識してもらっている。		